

第3回久御山町水道事業検討委員会 議事要旨

日 時	平成30年12月21日(金) 13:30~16:30
場 所	施設見学：佐古浄水場・北浦配水場 会議：議会棟4階 特別会議室
次 第	施設見学 1 佐古浄水場 2 北浦配水場 会議 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議題 (1) 久御山町水道事業経営戦略について ①「6. 投資・財政計画(収支計画)」について 4 閉会あいさつ 5 閉会 ※議題(1)に入る前に、当日追加説明として「水道法の改正について」を説明
出席者	(委員) 西垣委員長、松若委員、水野委員、谷口委員、中川委員 欠席：片岡委員 (事務局) 高田事業建設部長、樋口上下水道課長、川越課長補佐、奥田課長補佐、岩上主査

施設見学

- 1 佐古浄水場
 ※ 事務局による説明
- 2 北浦配水場
 ※ 車上から見学

会議

- 1 開会

- 2 委員長あいさつ
 - ・前回委員会からその後、水道法の改正があった。
 - ・経営の健全化、水道事業の安心安全、持続可能性を高める主旨の改定と伺っている。
 - ・今日は、今後の久御山町水道事業の、特に施設、管路の更新にかかる経費の見積を示していただき、料金改定の基礎を示していただくこととなる。

【資料確認】

3 議題

追加説明 水道法の改正について

－水道法の改正について事務局説明－

(1) 久御山町水道事業経営戦略について

①「6. 投資・財政計画（収支計画）」について

－「6. 投資・財政計画（収支計画）」について事務局説明－

委員長

- ・料金改定は、管路の更新率がどの程度早いかということによりだいぶ変わる。
- ・端的に表しているのが追加資料④となる。

委員

- ・追加資料②左の耐震化率比較表（全口径）で、最後が100にならないのはどういう説明だったか。

事務局

- ・現在、耐震適合管が50mm以上の管しかなく、50mm未満の管が全延長の11.3%あるため、88.7%が最高となる。

委員

- ・更新率1.5%、1.0%という2パターンは、現行計画にも当てはまるのか。

事務局

- ・現行で実施している重要給水施設配水管耐震化事業と鉛製給水管改修事業が終了後、残りの老朽管の更新・耐震化に取り組む。
- ・「現行計画」と「早期実施計画」との違いは、その二つの事業を早めるかどうか。
- ・老朽管の耐震化は、スタート時期が違うことになるだけで、あとは1.5%と1.0%という更新率をもって、二個試算している。

委員

- ・平成103年だと、もともと更新した管がもう老朽化してるのではないか。

事務局

- ・この表は耐震化率を表していて、老朽化とは別となる。
- ・法定耐用年数40年となっているが、今実際に耐震管として布設替えしているのは、実質耐用年数は80年から100年。
- ・長いスパンになるが周期的にそれが1周ということになる。

事務局

- ・更新率1%で100年かかる。
- ・今現在はだいたい0.7%を切るくらい、1%にするのは早めてやっていくということで、1.5%はさらにそれを早め倍くらいにするイメージ。
- ・どのスピードでやるか選ぶ中で、水道料金が変わる。

委員

- ・理解はできるが、耐用年数が40年なら1.0%、1.5%も非現実的では。
- ・耐震化と老朽管の交換を切り離して考えるのは非現実的では。

事務局

- ・耐用年数 40 年ということなら単純計算で 2.5%更新が必要だが、耐用年数 40 年というのは減価償却をかける年数。実際はもっと長く使える管がある。
- ・40 年で更新しないといけない管もあるが、60 年、80 年、100 年という管もある。トータルでならした場合 1.5%が理想。
- ・収支計画を作成する中では、1.5%ですらかなり厳しいのが現実。

委員

- ・他市町村の計画を見ると、1.5%はかなりよく平均以上。ならずとこれくらいかと思う。
- ・税法の耐用年数などは 40 年とか決まっているが、実質年数を加味すればこれくらいになる。

委員

- ・わかりました。

委員長

- ・久御山町の耐震化率 22%というのは、全国市町村レベルで 15%と比較すると、平均よりだいぶ高い。
- ・いずれにしても、その後の経費をどう考えるかが大事。

委員

- ・この企業債というのは、計画どおり借りれるということでもいいか。

委員長

- ・地方公共団体の場合は、起債については心配ない。

委員

- ・企業債がどんどん増えれば、その返済資金はどのようなイメージか。

事務局

- ・企業債の借入れについては、後年度負担になり、借りすぎると返済が重くのしかかるため、人口減少が見込まれている中で、残高は増やすべきではないという考えに基づいて計画を作成している。

委員長

- ・企業債を活用すれば料金改定は抑えられるが、返済計画が必要となる。
- ・また、返済のための料金改定が必要となる。

事務局

- ・そういうことから、残高を増やさない範囲内で計画を立てている。

委員

- ・シナリオ 3 と 4 でいけば、料金改定は平成 32 年度だけでいいということか。

事務局

- ・ただ 32 年度の改定率が高めには出てしまう。
- ・パターン 5 が料金改定を 2 回に分けており、損益計算書上黒になるよう改定率を出してはいるが、資金が増加する期間がないため、最終的に資金の残高が 6 千万程度になるような試算。

委員

- ・パターン5だと流動比率300%の目標を達成できないということか。

事務局

- ・パターン5は流動比率目標は達成できないが、流動比率を300%にした上で料金改定を分ける手法もある。ただし、分けることにより37年度の改定率が相当高くなるのではないかと思う。
- ・32年改定で流動比率を300%、資金確保をしているのがパターン3（改定率43%）。

委員

- ・改定率43%は大きい。
- ・料金値上げやむなしということはわかっているが、浄水場を見学して、久御山町はきれいな水がたくさん出るのに、どうして府から買わないといけないのかと思うと。やはり住民の理解を得るには、そこをうまく説明する必要がある。

委員長

- ・安心・安全という時のために水源を何種類か分けて持つべき。

事務局

- ・久御山町の施設能力が一日5,000、給水量が一日平均7,000であり、自己水だけでは賄いきれないのが現状。
- ・自己水だけでとなると、浄水場の施設拡張が必要。
- ・リスクの分散ということからも二元水源をとっている。

事務局

- ・実際に去年停電があり、町水が送れなくなり、府営水を直接繋いで送ったという状況もあった。
- ・委員が言われるとおり、いろんな場を作り、府営水のこと、水道の現状というものを伝え、理解を求める必要がある。

委員

- ・事業の持続性の議論で言えば、最終的には単年度収支がどうかということ。
- ・命に関わる生活インフラとして、京都府下でこれだけの料金格差があつていいのか。
- ・民営化、広域連携の話がある中で地域格差をどうするか。
- ・人口割りで言うと京都市の料金が京都府全体の平均値くらい。37%の料金改定で京都市水準とだいたい一致するのは。

委員長

- ・料金改定で言うと37%ぐらいが良いが。

委員

- ・住民説明をした上でないと、ここで議論して決まったことでも認めてもらえない。

委員長

- ・たくさんのパターンを作っていたが、今後の料金、更新の戦略を作るため、一定ターゲットを絞り、次回それに基づき議論を。
- ・一つは料金改定がどの程度許されるのか。
- ・一つは管路の更新率はどの程度がいいのか。
- ・料金の観点から見れば、投資計画は現行計画で料金を組んでみるということになる。
- ・水道ビジョンを策定された際に、一定安心、安全を考えた上で策定されている。

委員

- ・流動比率 300%の経営目標を達成しようと思うと 43%ということ。

委員

- ・投資目標が 1.5%でいくと 56%になる。

事務局

- ・投資計画の中で、現行計画としているのは、重要給水施設配水管と鉛管を現行計画どおり実施し、その後 1.5%と 1.0%の議論になるため、経営戦略上、計画期間 10 年間となっているので、収支計画の中では 1.5%か 1.0%かというのは出てこない。
- ・早期実施計画は、その現行計画の部分を早めた場合、後ろ 3 年が老朽管の更新になるので、そこを 1.5%と 1.0%と作らせていただいている。
- ・投資計画として議論していただきたいのは、その分岐点をどう持っていくかというところ。

委員長

- ・参考資料②の投資目標の一番目と二番目は、現行計画との関係で言えばどうなるのか。

事務局

- ・投資目標の一、二番目は現行計画どおりということ。

委員長

- ・料金的に言えば、現行計画を着実に進めていくのが、町民負担を考えても、経営を考えても現実的。
- ・議論を絞っていくにあたり、現行計画を着実に進めると、それに基づいて料金計画を 2 期に分けること。2 期に分けた時に、流動比率を達成するよう、もう少し料金を高くするとか、企業債を活用するとか検討する、そのような枠組みでいいか。

委員一同

- ・はい。

委員

- ・現行計画でいく場合は、資金をいかにこの 10 年で確保しておくか。そうすると流動比率の話が出てくる。

委員長

- ・そのような取り扱いでいいか。

委員一同

- ・はい。

委員

- ・仕方ないと思います。

【日程調整】

- ・第 4 回予定 1 月 31 日（木）午後 2 時 00 分～

4 閉会あいさつ

－事務局閉会あいさつ－

- ・現行計画を基に、流動比率ということを踏まえながらやっていくということで、ポイントを絞っていただきありがとうございます。
- ・今後は、定期的にこういった議論の場を持ちながら見直ししていきたい。
- ・どの形で住民の方に理解していただくか、事務局の大きな仕事であり、責任であると感じている。

5 閉会

以 上